かつての商業・文化の繁栄
→低迷→過去遺産で“ぬるま湯”暮らし

“人ごと”（他人、特に官依存）の
まちづくりがあたりまえの現状
↓
打つ手なし、あきらめ感蔓延

自らが課題の当事者
であることを自覚

**「自分ごと」として可能性を
模索するまちづくり**

課題を社会化し、
当事者の関係を広げる

誇りうる匝瑳の文化を
讃え合う運動

地域がもつ可能性を可視化

地域のあきらめごと
困りごとを共有する運動

閉鎖的な共同体意識を
緩やかに開放する運動

内なる「伝道師」
（かつての教師
やお坊さんの役割

ヨソ者視点の「伝道師」
（地区外、市外の人材）

**「自分たちごと」
を支える
中間支援機能**

まちづくりを主導する役割
からこれら仕掛けをつくり
きっかけをつくる役割へ

**「自分たちごと」の
市民によるまちづくり**

**「自分たちごと」の
行政によるまちづくり**

相互に働きかけ、共鳴するパートナーシップ

匝瑳市のまちづくり戦略＝「“自分たちごと”戦略」